

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	やまじ かつひこ 山路 勝彦		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	みうら こうきちろう 三浦 耕吉郎	関西学院大学社会学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習 I	KSGa-080707-0	18	

I. 調査実習に関するコメント

沖縄を共通課題にしても、学生の興味が多岐にわたっていて、その点では決して統一的な取り組みは出来なかった。例えば、沖縄の民俗に関心をもつ者、米軍基地と沖縄住民の生活に関心を持つ者、あるいは観光地としてみた沖縄に興味をもつ者、こうした多方面のニーズに応えるためには、さらに時間と金銭との支えが必要であるという所感をもった。

1. 調査のテーマ：沖縄の文化と社会

2. 調査の内容／概要：博物館や遺産（世界遺産）で、沖縄の歴史や文化がどのように展示されているのか、その展示の意味を探る。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：首里城を始め、多くの歴史遺産が「世界遺産」と認定されたことで、沖縄観光は飛躍的増加をみだし、ツーリストの沖縄への眼差しも変化した。そうした変化を促した「歴史遺産」、および「民俗文化」の展示方法を各種の博物館で実見した。

4. 主な調査項目：「エイサー」などの民俗芸能の見学、「グスク」遺跡、各種博物館、「セイファ御嶽」などの儀礼的聖地、海洋博跡地施設、「戦争記念碑」、こうした歴史的・民俗的施設の訪問と展示の方法。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：文化遺産の研究で重要なことは、その目的に照らして、何が展示され、何が展示されなかったのか、みることである。また、その展示の方法が適切であるのか、判断することである。こうした基礎的作業を中心に行った。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2008年12月15日～21日。調査地は、沖縄本島。とくに「海洋博記念公園」、「今帰仁城」、「首里城」、「セイファ御嶽」、「ひめゆりの塔」、「琉球村」などの歴史・民俗施設。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：各施設でのパンフレットの収集のほか、キューレターへの質問を行うことで、実体験を深めた。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：例えば、「エイサー」は本来は死者供養の儀礼であったが、今は観光用として行われている。この実演の見学を通して、こうした意味の変化を跡づけた。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：1975年に開催された「沖縄海洋博覧会」について、授業では詳しく分析を行っていた。今回の見学は、その跡地利用を見ることと、当時「沖縄」はどのように「展示」されていたのか実見することに目的の一つはあった。その展示の一環が直接、認識できたことは大きな収穫であった。

10. 報告書刊行の予定と概要：ゼミ生には今回の実習旅行の成果を単位レポートとして提出させた。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(「*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。